

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	総務文教常任委員会		会議場所 第3委員会室 担当職員 山内
日 時	平成28年1月29日(金曜日)	開 議 閉 議	午前10時00分 午前11時15分
出席委員	石野 田中 三上 小川 奥野 山本 木曾 堤		
執行機関 出席者	木曾教育部長、白波瀬教育部次長、山本教育総務課長、吉村学校教育課長、林教育総務課副課長		
事務局	藤村事務局長、山内次長		
傍聴	可	市民 1名 報道関係者 0名	議員 1名(富谷)

## 会 議 の 概 要

10:00

### 1 開議

### 2 事務局日程説明

### 3 案件

#### 行政報告

(1) 亀岡市学校規模適正化基本方針(案)について(教育委員会：教育総務課)

(教育委員会 入室)

教育部長           あいさつ  
教育総務課長       説明

#### 質疑

<山本委員>

パブリックコメントを受けた後に、修正をかけながら最終的に基本方針を決定し、平成28年度から地元の説明に入っていくということだが、地元説明に入った時に出される住民の意見は、基本方針に反映できるのか。意見を反映するのはパブリックコメント以外にはないのか。もし、そうであるならパブリックコメントをしっかりと周知すべきと考えるが、どうか。

<教育部長>

基本的に、パブリックコメントは市民全体の意見を聞くということであり、実際に地元に入ると、地元ならではの意見というものもある。そういうものも尊重しながら、現状のデメリットを少なくし、メリットを多くする方向性として、選択肢はすでに示されているので、それを基本に議論いただき、地元で合意を得て進めていきたい。

<山本委員>

地元で協議会を設立して、今後の方向性を詰めていくことになるのか。

<教育部長>

地元の中で協議会が必要な地域があればつくっていただき、その中で、示している

選択肢を基本に、今後の方向性を議論いただきたい。地元の案として一定の方向性を出していただき、教育委員会としても一緒に考えていきたいが、示されている選択肢がイコールではなく、地元の中でアレンジされて変わる可能性はある。

<山本委員>

地元の意見を聞きながら、どういう形になっていくかは、話の中で変わってくることもあるということではいか。

<教育部長>

全く違う方向に変わるということは、基本方針の意味がなくなるので、これを踏まえて、よりよいベターな方向があれば目指していけばよいと考える。

<山本委員>

パブリックコメントが大事になってくると思うが、小学校の保護者等への周知方法はどのように考えているか。

<教育総務課長>

11月に、提言に係る基本方針(案)を示させてもらっているが、それまでの会議ごとの内容はホームページにも掲載させてもらっている。

会議の中の委員については、自治会、PTA関係の方にも出てもらっており、一定、地域の中に持ち帰って説明されているところもある。

また、パブリックコメントにあたっては、関連の深い団体について、十分、行き渡るように文書等でもお願いしていきたい。

<山本委員>

きめ細かい周知を願う。(要望)

<三上委員>

検討会議の提言と基本方針(案)の変更点は。

<教育総務課長>

基本的な部分については提言を尊重しているが、表現上のことで、一部、変更しているところもある。

また、資料を後ろに整理して、基本的な部分、方向性を前にもってくるようにしている。

<三上委員>

若干の表現の変更はあるが、検討会議で出された提言の主旨をそのまま尊重しているという認識でいいか。

<教育総務課長>

教育委員会協議会の中で、何点か修正・追加した部分はあるが、基本的には提言の主旨を尊重している。

<三上委員>

学校の適正規模については、国の出している基準と亀岡市の事情は若干違うという説明があったが、それと同じく、国が出している教員の定数配置基準も、この地域とは合っていない。複式学級にならないような定数配置基準にしていかなければならないし、そういう点では、亀岡市は京都府に対して要望もしていかなければならないと考える。要件を緩和する動きを強めて、複式学級の見直しをするという柔軟な考え方、また、強く京都府へ要望していくということは視野にはないのか。

<教育部次長>

文部科学省では、かなりの教員を削減するということがされているが、複式解消の部分での教員定数の要望も含めて、定数増の要望は行っている。

<三上委員>

文部科学省が教員の定数を削減しようとしているという話があったが、数年前までは定数改善計画を出して、教員を増やしていこうとされていた。安倍政権になってから逆に定数を削減しようとしている。

P 1 1の「適正化に伴い配慮すべきこと」は、大変、重要であり、さらに充実させていくことが大事である。

となりの南丹市や京丹波町では、教職員はどのような方針が出て、どのような学校に再編されても必死に頑張っており、超過勤務の努力もされているが、亀岡市でも同様のことになると思っている。

P 1 2で、「既に問題が生じており、教育環境が損なわれている学校の解消」とあるが、既に問題が生じている学校はあるのか。

<教育総務課長>

ある程度の集団規模が必要という観点から、今回、まとめているところである。

<三上委員>

ある程度の人数規模が必要ということについても根拠はないと、教育長も本会議で答弁されている。

「すでに問題が生じており」という表現は、現場で教員が頑張ってもらっていることでもあるので、直した方がよいと考えるが、どうか。

<教育総務課長>

表現については、検討したい。

<三上委員>

逆に、規模が大きすぎる学校、学級の人数が多い学校への取り組みに重きを置いてもらいたいと考えるが、基本方針（案）ではその部分が弱いのではないか。

検討会議では、亀岡小学校の中川先生から、学校の選択制とか校区の弾力的な運用については望ましくないのではないかという、現場からの意見が出されていたが、その点はどのように考えているか。

<教育総務課長>

例えば東輝中学校区のところに書いてあるように、校区の見直しにより人数を適正化しようとするものであるが、経過措置を設けて、ある程度の期間はどちらかを選択できるといった対応が必要と考えている。

<三上委員>

複式学級になることで問題がある、教育力が劣るということはなく、むしろ学力の問題だけでいえば高いというデータもある。

今、各学校で特別支援教育に力を入れられているが、その手法は対象となる子どもだけでなく、すべての子どもにとって有用であり、学校全体の教育力が上がるということで注目されている。同じように、複式学級についても、その手法を取り入れた時に学習効果が上がるということもある。複式学級でも問題がないと保護者に思ってもらえる教育がされているのか、検証をしていく必要があると思うが、どうか。

<教育部次長>

定数のことについては、先ほど、文部科学省が削減の方向だと申し上げたが、正しくは財務省なので訂正させていただきたい。

複式学級については教育長から答弁させていただいたとおり、悪いということではなしに、保護者の意見、子ども達の思い、学校の活動のすべてを含めて、こういう結論を出しているのだから、理解いただきたい。

<木曾委員>

パブリックコメントは意見が出にくい。検討会議の内容がわからないと意見を出す

のは難しい。パブリックコメントを出す前に、検討会議の内容をインターネットで検索できるようにすれば意見が出やすくなるし、そのことが結果として、その後に地域の中で説明される際にもより理解が深まるのではないかと考えるが、どうか。

<教育総務課長>

それぞれの検討会議終了後、できるだけ早く、ホームページに資料、会議録を掲載している。

<木曾委員>

検討会議のまとめをホームページに掲載していることも周知した上で、パブリックコメントをもらうようにしていただきたい。(要望)

また、実施時期の方向性はあるのか。

<教育総務課長>

P12にあるように、時間軸として概ね3年から6年、それ以降としているが、例えば、選択肢の中で特認校制度の導入も検討しており、平成28年度で説明して、その方向で選択されるということになれば、平成29、30年度で特認校に踏み切ることとも可能であると考えます。

<木曾委員>

安詳小学校は児童が900人を超える差し迫った状況にもあるので、早く結論を出してあげてほしいと思うが、この点については弾力的に考えるということによいか。

<教育総務課長>

安詳小学校も含めて、亀岡、東輝、詳徳の各中学校ブロック内で、通学区域の見直しで対応できるものについては、地元調整をして早急に対応していきたい。

<木曾委員>

早急に地元との話し合いを願う。中矢田篠線の交差点改良工事が進むと状況も変わるので、早急に対応願いたい。短期の3年では、とても間に合わないと思うので、よろしく願う。(要望)

<教育総務課長>

地域に入って説明させていただき、早急に道すじが見つけれられるように対応していきたい。

<奥野委員>

P11で、「地域生活・コミュニティとしての学校の役割の尊重」とあるが、市として空き家対策や、住民が増え、子どもが増えるようにもって行ってほしい。

また、「機能が失われかねません」「新たな価値を生み出すことなども視野に入れて」という表現もあるが、機能が失われた時に具体的にどうするのかということがあれば示してほしい。

<教育総務課長>

人口増加、定住促進の取り組みについては、亀岡市では総計の後期基本計画、総合戦略の中で、一定、示している。

教育委員会の方でも基本計画を持っているので、その中で進めていく必要がある。

指摘いただいた文書表現については、地域に入って地域の方の声もお聞きする中で、一緒に考えていきたい。

<奥野委員>

地域住民の意見を十分聞いていただき、選択肢を十分検討する中で、進めて行ってほしい。(要望)

<小川委員>

大成中学校区については、現状推移を見守っていくということによかったか。

< 教育総務課長 >

大成中学校区については、児童数が大井小学校では少し減り気味で、千代川小学校は増加傾向にあり、教室、クラス編成をどのようにするか検討しているところである。

< 三上委員 >

どの学校も大切にしている姿勢を持っていること、教育をより豊かにするためにという基本方針がしっかりわかるような形で市民に知らせていただきたい。

また、全体の計画、特にまちづくりのビジョンとしっかり合わせて、周辺部のことを考えていただきたい。

教育の独自性、専門性があるので教育委員会制度があるのであり、教育的な見地から保護者にしっかりと返してもらえるような教育委員会であってほしいし、地域に学校のあることの大切さを堅持して、学校を守る立場で市民、保護者にも返していただきたい。(要望)

< 堤委員 >

教育委員会は子ども達の教育環境をよくするためにこのような指針を持っているのか。これから、子どもが減ってくる見込みの中で、財政上の問題も出てくるが、子ども達のためになる教育ができることを基本に考えて、このようなまとめをされたのか。

今後、地域に入って説明会をされるにあたって、本来の教育のあり方の部分をしっかりと説明していただくよう、切にお願いしたい。(要望)

( 質疑終了 )

( 2 ) 「亀岡市ふるさと体験学習事業 “ 保津川下り ”」について  
( 教育委員会：学校教育課 )

学校教育課長 説明

質疑  
なし

( 教育委員会 退室 )

11 : 10

#### 4 その他

##### 次回の日程について

- ・臨時会 ( 2月17日 (水) ) において議案審査。
- ・月例は、2月23日 (火) 午前10時から  
テーマは「京都亀岡ハーフマラソンの総括・検証について」

< 石野委員長 >

他になければ、これで総務文教常任委員会を閉議する。

11 : 15 閉議